

(毎月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行)

縣報 第六百七十一號

明治四十年六月六日

和歌山縣

○公文

○和歌山縣訓令第二十七號

郡市役所

近時韓國關東州及樺太等ノ沿海ニ出漁スル者著シク増加シ又一般沖合ノ漁業モ大ニ進歩シテ漸次遠距離ノ海洋ニ出漁スルモノ多キヲ加ヘタリト雖モ其ノ漁船ハ尙ホ從來ノ日本形船ナルヲ以テ一朝風波ニ會シテハ往々破壞、覆没ノ厄ニ罹リ爲ニ勇敢ナル漁夫ヲ失ヒ生産力ヲ減殺スルコト鮮少ナラス而シテ此危險ハ遠洋ニ出漁スル鯉釣船、珊瑚採取船、繩船等ニ多ク又寒地ニ出漁スル漁船ニシテ甲板ノ設ケナク防寒具ノ備ヘナキヲ以テ漁夫凍傷ヲ思ヒ動作ノ自由ヲ失シ終ニ其生命財産ヲ毀損スルモノ亦多大ナリ本縣ニ於テハ這般ノ漁業者未タ多カラサルモ然カモ現ニ出漁シツ、アルモノアリ將來亦之カ計畫ヲナスモノ少ナカラサルヘシ而シテ現今此等ニ使用スルトコロノ漁船ヲ見ルニ又皆ナ從來ノ日本形漁船ニシテ遠航ノ漁業ニ適應スルモノナキハ寒心ノ至リナリトス元來日本形漁船遭難ノ慘禍多キハ一ニ船体ノ脆弱ト設備ノ不完全トニ基因スルモノナルヲ以テ左ニ述洋出漁者ノ注意スヘキ事項ヲ舉示ス宜シク當業者ヲシテ之ニ準據シ遭難ヲ未然ニ豫防セシムルコトヲ期スヘシ

明治四十年六月五日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

縣報第六百七十一號 明治四拾年六月六日 第三種郵便物認可

一 韓國、關東州及樺太等ノ沿岸ニ根據地ヲ設ケ移住出稼ノ漁業ヲ爲スモノヲ除クノ外漁期ニ方リ内地ヨリ往復スル漁船及内地ニ於ケル鯉釣、鱒釣、流網等ニ使用スル大形漁船ヲ新造セムトスルモノハ可成遠洋漁船檢査規程ニ準據シ西洋形漁船ト爲サシメ若シ日本形漁船ナルトキハ左ノ規格ニ遵ハシムルコトヲ要ス

(イ) 少クトモ船長三分ノ一間水密甲板ヲ張り船室ヲ設クルコト但シ鯉釣船ノ如キ甲板ヲ不便トスルモノハ大ナル船口ヲ作り「カンパス」及「門」ヲ以テ必要ノ際水密ト爲シ得ルノ構造トナスコト

(ロ) 船首部及必要ノ箇所ニ肋骨又ハ仕切板ヲ設クルコト

(ハ) 戸立ハ根曲材又ハ鐵曲材ヲ以テ數及柵ニ堅固ニ固着スルコト

(ニ) 船首ニ可成樺其他ノ堅材ノ肘材ヲ取付クルコト

(ホ) 鯉釣船ニ於テ生餌樽ヲ用フルモノハ可成活間トスルコト

二 西洋形漁船ヲ新造スル者ニハ遠洋漁業獎勵法ニ據リ獎勵金ヲ與ヘラル、途アルヲ以テ命令ノ規定ニ從フトキハ此特典ヲ享クルコトヲ得ヘシ

三 風土懸殊ノ海岸ニ出漁スル者ハ衛生上ノ注意ヲ爲スハ勿論寒地ニ赴ク者ハ必ス防寒具ヲ備ヘシムルコトヲ要ス

○和歌山縣告示第百十七號

漁業法施行規則第二條第七號若ハ第三條第一號又ハ第二號ニ該當スル漁業ヲ目的トナス公有水面
使用願ハ當該漁業ノ許否ニ依リ全時ニ處分セラレタルモノト心得ヘシ

但公有水面使用願書ハ漁業免許願書ト同時ニ差出スヘシ
明治四十年六月四日

和歌山縣知事 伊澤多喜男

○正 誤

縣報第六百七十號三頁中訓令第(三十二號)ハ(二十三號)ノ誤リ同(縣立測候所)ハ(地方測候
所)ノ誤

明治四十年六月五日

和歌山縣

○村長及助役ノ異動

那賀郡池田村長 佐野 尙民

右六月二日認可ス

日高郡切目川村助役 水 本 要

西牟婁郡西富田村長 大平 七左衛門

右六月三日認可ス

○觀 測

明治四十年六月一日ヨリ三日間當地氣象概況

月日	前年	本年	前年	本年	前年	本年
六月一日	六月一日	六月二日	六月三日	六月三日	六月三日	六月三日
種類	前年	本年	前年	本年	前年	本年
平均氣壓	七六四耗六	七五八耗五	七六二耗三	七五八耗九	七五八耗八	七五六耗九
平均氣溫	一七度一	二〇度六	一八度六	二二度三	二〇度一	一八度九
最高氣溫	二四度〇	二八度五	二三度〇	二七度七	二四度四	二四度九
最低氣溫	九度〇	一四度〇	一三度四	一六度三	一三度七	一四度一
最多風向	北々西	東北東	東	南西	東	東
平均風力	二米六	二米七	二米八	二米三	四米四	二米五
天氣	晴	晴	晴	半晴	晴	晴
雨雪量	1	1	1	1	1	1
記事現象	現ル 午后月暈	着電 夕刻海陸 風雨警報	十二秒 十八分四 午前七時	1	月暈現ル 午后日及	戒ヲ解除ス 内陸ノ警 午前九時

リ四十七
秒間微震
急性ニシ
テ方向ハ
西北西一
東南東
午前十時
海上風雨
ノ警報到
着

午后日曇
ヲ映ズ

明治三十三年五月八日第三種郵便物認可

縣報第六百七十一號

明治四拾年六月六日

第三種郵便物認可

六終

(每月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行)

明治四十年六月五日印刷

(寄付代價)

丁次

印刷人

和歌山市久保町一丁目一番地
山本友太郎